

## 編集方針

2006年度に初めて環境報告書を公表して以来、3年間で京都大学は様々な環境活動を進めてきました。優先的に取り組むべき事項を「京都大学環境計画」として策定し、「京都大学環境賦課金制度」の導入や学内店舗でのレジ袋の使用削減運動など、京都大学スタイルでの環境活動を中心として構成員参加型を目指した取り組みを行っています。

この3年間で、京都大学はどのように変化したのでしょうか。今回は「3年間の環境活動の総点検と今後の展望」を特別テーマにし、これまでの成果や反省点について、そしてそれらをふまえてこれからの京都大学はどうあるべきかを、様々な立場から綴りました。構成員の皆さんもこのメッセージを共有していただければと思います。また、この環境報告書をご覧になったすべてのステークホルダーの方々とのコミュニケーションツールとして活用したいと考えています。アンケート等で、ご意見・ご感想をお寄せください。

作成にあたっては、京都大学環境・安全・衛生委員会の下に設置した学内教職員からなるワーキンググループが中心となり執筆編集を担当したほか、一部教職員や学生の方にも執筆に加わっていただいています。

---

### ● 参考にしたガイドライン

環境省 環境報告ガイドライン ～持続可能な社会をめざして～ (2007年版)

#### 京都大学環境報告書ワーキンググループ (2009年度)

■ 設置：2009年2月

■ 座長：佐治英郎 環境安全保健機構長

■ 委員 (50音順)：浅利美鈴 (環境保全センター助教)、井崎宏子 (京都大学生協)、黒川敏康 (附属病院職員)、酒井伸一 (環境保全センター教授)、佐久間大介 (施設環境部職員)、新谷朋宏 (施設環境部職員)、谷口法敏 (宇治地区事務部職員)、西嶋由孝 (環境安全衛生部職員)、日名田良一 (工学研究科職員)、松下 敏 (総務部職員)、森直樹 (理学研究科職員)、山本 明 (宇治地区事務部職員)